

営農再開地区における斑点米カメムシ類 防除の実証(田村市)

福島県農業総合センター 生産環境部 福島市駐在

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付実証(県による実証研究)
研究課題名 営農再開地区における斑点米カメムシ類防除の実証
担当者 鈴木幸雄

I 実証技術の解説

1 要旨

避難指示区域等において、地域の協力のもと営農再開に向け既存研究成果等を活用した実証栽培を行い地域の営農再開等を進める。

本課題では、現地ほにて、持続性の高い箱施用剤および乳熟期頃の散布剤による防除を実施した結果、斑点米発生率が概ね0.1%以下となり薬剤の防除効果が認められた。

- (1) すくいとり調査では、黒川畦畔および黒川水田内で、ホソハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの成虫および幼虫が確認された(データ省略)。
- (2) 斑点米カメムシ類の防除を行わなかった「黒川無防除」、「板平無防除」区の斑点米率は、それぞれ1.26%、0.31%となり、品質鑑定もカメムシ着色粒により落等した(表2)。
- (3) 箱施用剤(チアマトキサム・ピロキロン粒剤)または乳熟期頃の散布剤(ジノテフラン液剤)の防除を行った「黒川 散布剤」、「黒川箱施用+散布剤」、「黒川箱施用」および「板平散布剤」各区の斑点米率は概ね0.1%以下であった。

これらの区は、品質鑑定でも、カメムシ着色粒による落等はなく、箱施用または乳熟期の散布剤による防除効果は高かった考えられた(表2)。

2 期待される効果

- (1) 斑点米カメムシ類防除における防除薬剤選定の参考資料となる。

3 活用上の留意点

- (1) 斑点米カメムシ類の防除には、耕種的方法(畦畔の草刈り、ほ場内の雑草防除)をあわせて励行する。

II 具体的データ等

表1 調査ほの概要

No.	調査区	品種	防除体系			
			育苗箱施用	散布剤	散布日	
1	黒川 散布剤	ほ場A 集落付近	チヨニシキ	—	○	8/20(出穂後15日)
2	黒川 無防除		チヨニシキ	—	—	—
3	黒川 箱施用剤+散布剤	ほ場B ほ場Aの隣	ひとめぼれ	○	○	8/18(出穂後12日)
4	黒川 箱施用剤		ひとめぼれ	○	—	—
5	板平 散布剤	ほ場C 谷地	チヨニシキ	—	○	8/19(出穂後13日)
6	板平 無防除		チヨニシキ	—	—	—

注) 育苗箱施用剤:チアメトキサム・ピロキロン粒剤 散布剤:ジノテフラン液剤

表2 出穂期および乳熟期、ならびに品質・斑点米調査結果

No.	調査区	出穂期 乳熟期※		散布剤 防除期	品質鑑定(1-10)※		斑点米率(%)			防除価※	水田内雑草発生状況	
		月/日	月/日		乳熟期+○日	(斑点米除く)	格付理由	全部	頂部のみ			銜合部のみ
1	黒川 散布剤	8/5	8/18	+2	4	4	青未熟 死米	0.09	0.02	0.02	93	なし
2	黒川 無防除	8/5	8/18	—	4	10	死米 カメムシ	1.26	0.57	0.52	—	なし
3	黒川 箱施用剤+散布剤	8/6	8/19	-1	6	6	青未熟 青死米	0.10	0.02	0.03	—	8月上旬よりノビエ やや目立つ
4	黒川 箱施用剤	8/6	8/19	—	6	6	青未熟 青死米	0.08	0.05	0.01	—	ノビエ散見される
5	板平 散布剤	8/6	8/19	+0	6	6	青死米	0.11	0.06	0.01	65	なし
6	板平 無防除	8/6	8/19	—	4	4	青未熟 カメムシ	0.31	0.11	0.11	—	なし

注1.乳熟期は「Googleマップによる気象予測データを用いた水稻栽培管理警戒情報システム」で出穂期の入力により算出した。

注2.品質鑑定はJA郡山市農産物協議会による10段階評価(1:上上、…、9:下下、10:規格外)

注3.各無防除区に対する防除価(100-(処理区全部斑点米率/無防除全部斑点米率)*100)

III その他

- 1 執筆者 鈴木幸雄
- 2 実施期間 平成26年度
- 3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1) 水稻品種「天のつぶ」の品質向上のためには斑点米カメムシ類への対策が重要である
(平成25年度参考となる成果)